

カリキュラム(計画) 日本語教育方法論

作成者 氏名：鎌田 美千子

○養成・研修 / 基礎・○専門・支援員 (該当するものに○)

★参照したモデルプログラムNO. (報告書 pp. 207-244) 下線：内容・項目 (pp. 72-76)

日時・場所	2018年11月1日 宇都宮大学			
実施団体・機関	宇都宮大学			
研修・授業名	国際学部専門科目「日本語教育方法論」(選択科目)			
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・人数：31名 ・年齢層：10-20代 31名 		<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の立場：学生 	
演題・テーマ☆	日本語指導と教科書—子どもへの日本語教育— ☆研修内容(報告書 pp. 72-76)を反映			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日本語学習について主体的に考えられるようになること ・子どもの日本語教育に関するシラバスの違いを知ること 			
活動展開 (70分)	★	形態	留意点	参考資料
導入： 1. 「日本語指導が必要な児童生徒」について (5分)	①③	講義	・「日本語指導が必要な児童生徒」の定義と状況について知る	・文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等の受入状況に関する調査」
展開： 2. 日本語教室の例 (10分)	⑤	講義	・DVDを見ながら、指導する場所、指導時間などについて知る	・早稲田大学大学院日本語教育研究科作成DVD
3. 日本語教室での学習内容について (10分) <ul style="list-style-type: none"> ・「サバイバル日本語」プログラム ・「日本語基礎」プログラム ・「技能別日本語」プログラム ・「日本語と教科の総合学習」プログラム ・「教科の補習」プログラム 	⑱	講義	・来日当初の初期指導とその後の中期指導の違いについて知る	・文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引き」

<p>4. 発達段階にあわせた日本語指導について(5分)</p>	<p>⑰</p>	<p>講義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生前半, 小学生後半, 中学生の指導方法について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引き」
<p>5. 日本語教育におけるシラバスについて(5分)</p>	<p>⑰</p>	<p>講義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各シラバスについて理解する 	
<p>6. 年少者向け日本語教科書について(10分)</p>	<p>⑰</p>	<p>活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教科書の目次をもとにシラバスの違いを2～3人で話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・『ひろこさんのたのしいにほんご1』『にほんごをまなぼう1』『日本語を学ぼう3』『おひさま』
<p>7. 日本語教科書の選定(15分)</p>	<p>⑱</p>	<p>活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・滞在期間・学習段階等に応じた日本語教科書はどれか, 2～3人で話し合う ・話し合いの後, 席の前後で意見交換する ・席の前後4～5名のグループの各代表者が報告し, それぞれの考えを全体で共有する ・教員は必要に応じて補足する 	
<p>まとめ: 8. 全体のまとめとふりかえり(10分)</p>		<p>講義 活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体をまとめ, 日本語教科書の他にどのような教材があるとよいかを発展的に考える ・授業後にWebサイトで公開されている日本語教材にどのようなものがあるかを閲覧する ・各自のふりかえりを「ふりかえりシート」(毎時使用)に記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「かすたねっと」他